

---

# MOON-4 夜叉 2 < 1 7 > -第 2 部完

みづき海斗

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

MOON - 4 夜叉 2<17> - 第2部完

### 【Nコード】

N0142N

### 【作者名】

みづき海斗

### 【あらすじ】

和人と記憶を共有している事に気付いた裕希は、再び新宿に足を踏み入れる・・・そこで待っていたのは・・・

MOONシリーズ 『夜叉2』 完結です。

#### 4・記憶 - 2 (前書き)

『夜叉』の原稿が終わったなら「腑抜け」になってしまった海斗――  
| ) / z z z

まだ、半分です、『夜叉』 (滝汗)

## 4・記憶 - 2

学校を飛び出した裕希は電車に乗り、新宿 大京町のマンションへと向かっていた。

昼間のわりと空いている車内で、裕希は考える。

（もし和人が――そして俺の中にある和人の『記憶』が九桜の復活の鍵を握っているのだとしたら、桜も榊も俺たちにそう簡単に手を出せないはず。）

朝子と『眠る』和人がいるはずの、大京町のマンション。

（和人の影響かな・・・俺。ずっと新宿けっかいの中にいたし）  
何故、和人の記憶を裕希が持っているかが裕希自身にも判らない。  
ただ、桜たちに対抗出来る力があるかもしれない――それが、望み。

秀はあの夜、榊に奪われたまま行方が判らない。

たぶん、桜の所に捕らわれているんだな、と思う。

電車で30分。裕希は新宿へ着き大京町のマンションを目指した。  
人混みをかき分け走る。

（『昼間』だったら、九桜の側も動けないはず。）

そのマンションの8階に着き、静かな廊下を部屋へと向かう。  
合い鍵は朝子からもらっていた。

銀色のそれを、白いドアの一角に差し込み、

キー・・・

ドアを開ける。

「え・・・」

そこには、何もなかった。

いつも玄関に入ると見える黒いソファもカーテンさえも何もなか

った。

人の住んでいた気配すらない、密室。

「・・・・・・・・」

『おうちへ帰りなさい、裕希くん。』

朝子の最後の台詞が甦る。

「――」

裕希はゆつくりと室内に入り、南側に位置する和人の部屋のドアを開けた。

キ・・・・・・・・

そこで眠ってるはずの和人の姿も、彼に寄り添う朝子の姿もなかった。

「どうして」

裕希は、叫んだ。「どうして！そんなに俺が頼りにならない！」

悔し涙が頬を伝う。「俺、やっと守りたいもの見つけたのに。」

悔しだけが心の中に広がる。

（どうしたらいい？どうしたら桜を倒せる？）

再びリビングに戻った時、

「裕希。」

玄関の方から聞きなれた声が聞こえてきた。

視線を移す――そこには、秀の姿があつた。

「！・・・・・・・・」

一瞬、言葉を失う。「・・・・・・・・秀さん。」

秀はいつもの様にEDWINのGパンにTシャツ姿で立っていた。

それが本当に秀なのか、戸惑う裕希。

「本当に秀さん？」

裕希が尋ねる。「桜に捕まったんじゃないの？」

「あんな奴に尻尾振る俺じゃないつしょ。」

ニヒルな笑顔を浮かべる。

秀だった。

「秀さん、心配したんだから!」

彼に駆け寄り見上げる。「皆どっか行っちゃうし、和人も朝子さんもないし。どうして?」

「・・・・・・」

秀は少し沈黙し、やがて、

「裕希。一緒に行こう、その方が安全だ。」

と、右手を少年に向かって差し伸べる。

「うん!早く桜を倒して和人と朝子さん探さなきゃ!」

裕希は微笑み、その手を握ろうとした。

刹那。

『駄目だ、裕希!』

和人の『声』が聞こえた。

「え?」

裕希は思わず、振り返った。しかし、そこはやはり無人の室内。

「・・・・・・」

「どうした、裕希。」

秀が無表情に尋ねる。

「うん。」

彼は素直に、「今、和人の声聞こえなかった?秀さん。」

「和人?」

秀は少し目を細めた。

裕希はそれを見逃さなかった。

その闇色の黒曜石が煌めくのを・・・・・・

「ごめん、秀さんっ！」

裕希は秀に体当たりをして、玄関の扉を開いた。肩越しに、

「ごめん、秀さん。でも、俺、桜に捕まる訳にはいかないんだ！  
和人を……そして朝子さんや本当の秀さんを取り返した  
いんだ！」

それだけ告げると、

バタンッ

思い切りドアを閉めて、今来た廊下を走りだした。階段を駆け降りる。

エレベーターは既に他の階に移っていた。

（逃げなくちゃ！）

全力疾走で、階段を飛び降り、マンションの前に出る。

『闇』が動き出す前に、裕希は逃げようと思っていた。

「秀。」

何処からか少女の声が聞こえた。

「判ってるさ。」

秀は頭を振り、「欲しいんだろ、篠原裕希が。」

残されたマンションの一室で、そう呟く。

「逃しはしないぜ、篠原裕希。」

闇色に光る瞳で、秀はそう言った。

新宿<sup>まち</sup>には、間もなく夜が訪れる。

n - C i e l : r e y >  
< 2 F i n B G M : L , A r c - e

#### 4・記憶 - 2 (後書き)

a・n・j e l l にハマってる方いませんか？ (海斗かなり遅  
れてる。。。)  
(

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0142n/>

---

MOON-4 夜叉 2 < 1 7 > -第2部完

2010年10月13日04時50分発行